

ブラジルでの牛海綿状脳症（BSE）確認事例について

2012年12月10日
動物衛生課

OIE は、2012年12月7日（現地時間）付けで、ブラジルにおいて BSE 牛(2010年12月死亡時 約13歳)が確認されたことを公表した（出典：

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=12682 別紙参照）。

当該牛は約2年前に死亡しているが、本年12月6日に OIE の BSE リファレンスラボである、英国動物衛生獣医研究機関(AHVLA) において、BSE であることが確認された。

なお、OIE は本発生をもってブラジルの獲得している「無視できる BSE リスク」のステータスを剥奪していない。

当該牛：繁殖肉牛（雌）

（2010年12月19日死亡（約13歳。）埋却）
パラナ州セルタノーポリス市（ブラジル南部）

【履歴（日付はすべて現地時間）】

- 2010年12月18日：獣医当局は、通常検査の際に所有者から、四肢硬直し横臥している牛がいる旨の報告を受けた。
- 2010年12月19日：当該牛死亡（埋却）。獣医当局は死亡原因特定のため、当該牛からサンプル採取。狂犬病検査は陰性であり（当該地域は、草食動物の狂犬病汚染地域であるので、鑑別診断のために行われた）、かつ当該牛は成牛であったため、当該牛サンプルは BSE 検査に回された。

- 2011年4月11日：獣医当局の認定検査機関による組織検査によって BSE 陰性の結果となった。

- 2012年6月15日：国立研究所での免疫組織化学検査において BSE 陽性と診断。

〔※ブラジル政府は、国立研究所での検査が遅れたのは、OIE コードにおける9歳以上の死亡牛の BSE リスクが低いため、検査の優先順位が低かったためとしている。〕

- 2012年12月6日：サンプルを送付した英国動物衛生獣医研究機関(AHVLA) により、免疫組織化学検査により BSE 陽性であると確認される。
- 2012年12月7日付けで OIE に通報（日本側確認日：日本時間12月8日）



パラナ州セルタノーポリス市